

## 4班：「IRは設計で決まる！」

○山本鉦（九州工業大学）、岩崎淳也（東北大学）、岡田俊明（岡山大学）、小山治（徳島大学）、渡邊和馬（福岡教育大学）

### 1. 議論結果の概要

メンバーの属性と各メンバーの個別課題の概要を以下に記す。

岩崎淳也 東北大学 医学教育推進センター 助教

**個別課題**：問題行動を起こす学生を把握するために、どのようなデータを集めて分析すれば良いか明確でない。

岡田俊明 岡山大学 情報統括センター 主任専門職員

**個別課題**：部局からのデータ収集について、業務量が増加するため依頼し辛い。個別データからの集計の際に機械的な集計ではなく、人による判断が入るため集計が難しい。

小山治 徳島大学 インスティテューショナル・リサーチ室 助教

**個別課題**：質問紙調査に関する理解度が事務担当者によって異なり、学内の合意形成や協力体制の構築が難しい。

渡邊和馬 福岡教育大学 経営政策課計画・評価室 課員

**個別課題**：IR 実施体制は構築できたが、メンバー全員が兼務であることから、円滑に運営されているとは言い難い。

山本鉦 九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室 助教

**個別課題**：分析依頼について優先度を付けることが難しく、依頼が複数あると予定通りに進まないことがある。

各メンバーがこれらの個別課題を説明した後、特に「データ収集」段階において課題が多いことに着目し、「データ収集」時の課題にポイントを絞って議論を進めることにした。その原因や共通課題についてブレインストーミングやグループディスカッションを実施し、以下6つの共通課題を洗い出した。

- 共通課題1：（教員や事務担当者から）協力が得られない
- 共通課題2：（収集する項目の）フォーマット（定義書）が統一されていない
- 共通課題3：必要な時に必要なデータが得られない
- 共通課題4：データ管理ができていない
- 共通課題5：（データの）目的外使用に対する理解が得られない
- 共通課題6：（質問紙調査などの）データ収集に関する部局内の理解が得られない

その後、これらの共通課題に対する解決策を討論した。例えば共通課題1であれば、キーパーソンに対して調査・分析の必要性を理解して貰う、という策が出た。この解決策を実施することで部局担当者の協力が得られ易くなるかもしれない。共通課題2であればIR担当者が学内データを広く見て、入力する側、利用する側双方の立場から必要項目を精査する、という策が出た。これを実施していくことで、様々なデータに共通する項目のフォーマットが完成するかもしれない。

このよう形で、共通課題全てに対して解決策を討論していくと、「調査・分析の設計」がしっかりできていないと、上述の課題が顕在化するのではないか、という可能性が示唆された。これを避けるためには、設計にしっかりと時間を割くこと、また、次に続くデータ収集、分析、報告が円滑に進むかを事前にシミュレーションしておくことが必要であるとの知見を得た。

#### 【ポスターの説明】

上記の討論の結果を、共通課題毎でポスターにまとめた。共通課題に対する解決策を考えていく中で、そもそもの設計に問題があることに気がついた。どうすれば評価・分析を円滑に行えるような設計ができるか、ということについての案をポスター下部にまとめた。

#### 2. グループ討論を通して感じた評価や IR を改善に活かすためのコツ、感想等

このグループ討論を行うことで、最も基本的なことではあるが、設計の重要性を再認識した。また、設計を行う際には分析担当者や事務のどちらか一方が行うのではなく、双方が一緒に検討することで、円滑に調査や分析を行える可能性がある。調査・分析が全学的な規模になる場合は、報告対象である理事・副学長も含めた形で設計することも検討する必要がある。

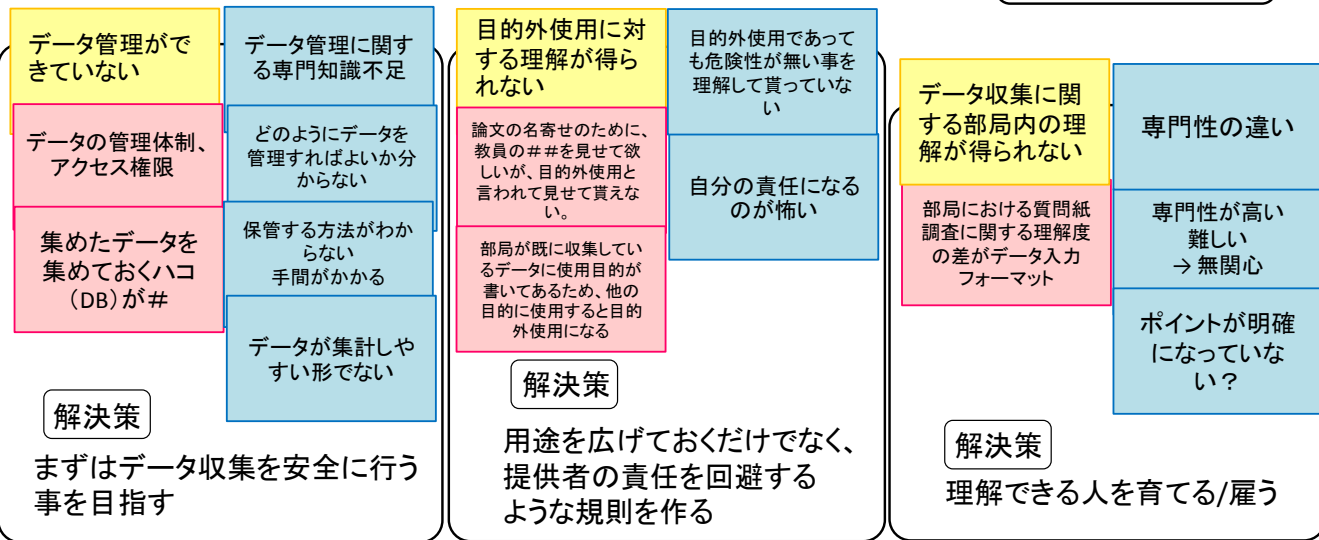
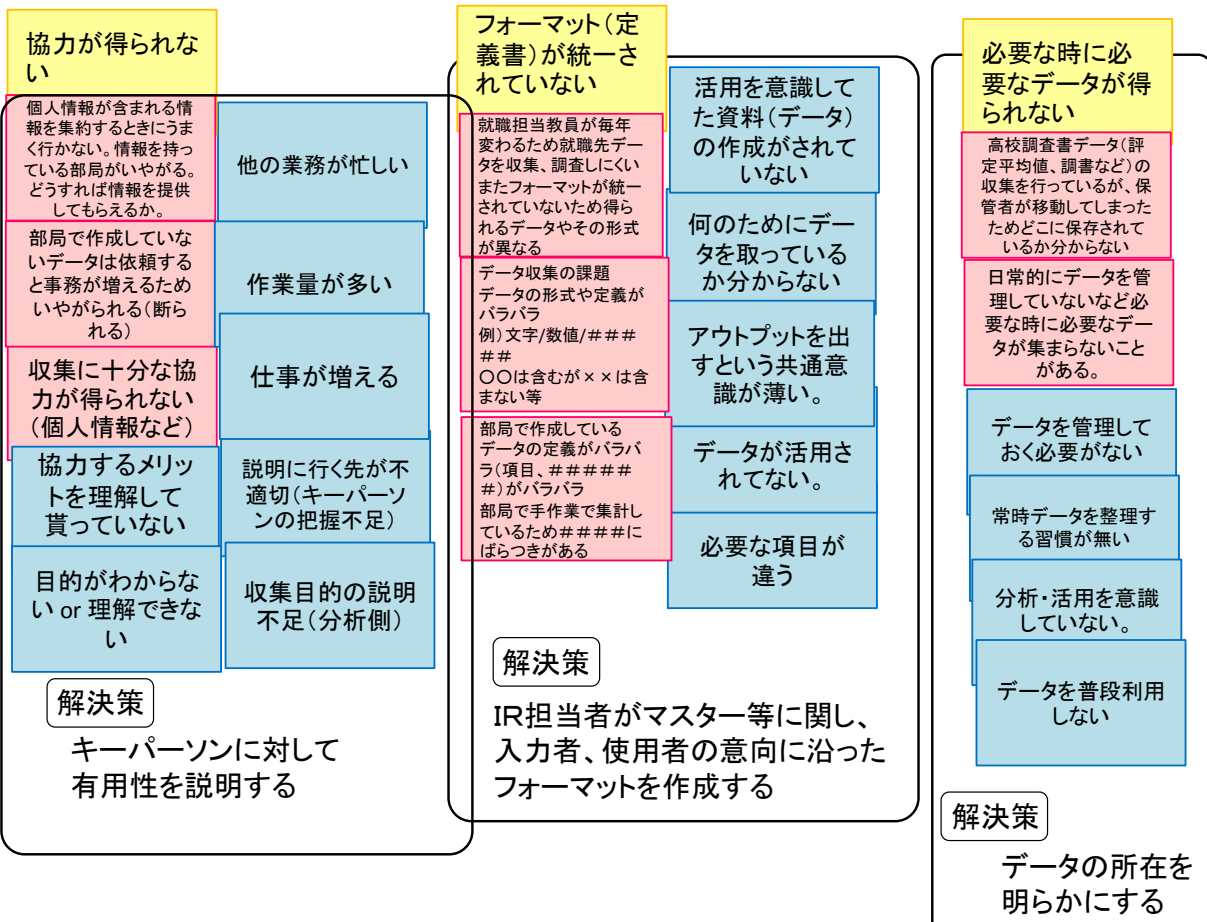
各メンバーが今後繋がる知見を得ることができたという点で有益な場であった。しかし、グループ討論の時間が3時間であることを考えると、ポスターにまとめる共通課題をもう少し絞った上で討論すべきであったと感じた。

# 4班 IRは設計で決まる！

共通課題

個別課題

原因



**設計するときは、IR担当者、事務のキーパーソン、理事・副学長を含めて行う。そして、評価・分析プロセスを円滑に行う事ができるかを見極めよう！**